

平成 12 年度（2000 年度）事業計画書

企業メセナ協議会は、本年、設立 10 周年を迎えました。過去 10 年間の協議会活動は、日本の社会に「企業メセナ」という概念を普及させる上で大きな役割を果たしてきました。今後はその基盤をさらに固め、メセナに関する情報センターとしての役割、機能を強化し、協議会の存在意義をいっそう高めるように努めてまいります。

当面、国内経済はひきつづき厳しい状況にあるものと予測されますが、2000 年度の協議会事業は 21 世紀における新たな展開を視野に入れつつ、10 周年記念事業も含めて以下のとおり推進します。

I 事業計画

1. 啓発・普及事業（2,610 千円）

1.1 セミナー、シンポジウム

本年度は、研究部会での研究活動と連動させながら、企業メセナに関連するテーマのもとに、主に会員を対象とするセミナーを年 2～3 回実施します。

また、協議会設立 10 周年記念事業としてシンポジウムを 10 月に開催します。（後述）

1.2 地域メセナ組織との交流

ひきつづき全国メセナ・ネットワーク（加盟 16 団体）やその他の地域組織との交流を深めつつ、各地におけるメセナ活動の振興を支援していきます。

2. 情報集配・仲介事業（22,970 千円）

2.1 情報誌の発行

1999 年度から新たに刊行したニューズレター「メセナ note」はメセナのオピニオン・ペーパーとしての内容充実をめざして、10 周年記念事業との連動もはかりながら、ひきつづき年 6 回、奇数月に発行してまいります。

※2000 年 3 月現在の発行部数：5000 部（うち一般定期購読は 700 部）

2. 2 コンピュータシステムの活用

昨年末に増強した事務局の情報設備を今後、次のように有効に活用してまいります。

- (1) 協議会ホームページのリニューアルと内容充実
- (2) 電子メールによる「メセナ大賞」の応募受付
- (3) 「メセナ白書」でのインターネット調査の実施
- (4) 会員企業との情報交流の強化

2. 3 メセナ・コーディネート事業

企業メセナ関連の企画、運営業務を受託するコーディネート事業の一環として、本年度も全国7カ所で開催予定の「トヨタ・アートマネジメント講座」に協力します。

3. 調査研究事業 (20, 780 千円)

3. 1 「メセナ白書 2000」の刊行

調査部会の協力を得て、例年の企業メセナ実態調査の実施結果とその分析、また特集として一般市民の企業メセナに関する意識調査結果も併載し、10月中旬の刊行をめざして作業を推進します。

なお、現行スタイルの白書は10冊目にあたる当年度版をもってひとまず区切りをつけ、新たな手段を用いる方向で検討を進めます。

〔調査部会メンバー〕

岡部修二氏 (トヨタ自動車) ※部会長

市川哲夫氏 (第一生命) 河辺尚之氏 (富士ゼロックス)

小椋 覚氏 (サントリー) 土田芳孝氏 (朝日新聞社)

中島康夫氏 (電通)

3. 2 研究活動

1999年度に発足した研究部会において、各界の専門家の方々との意見交換も行いつつ、芸術支援をとりまく諸問題や企業メセナの今後の方向などについての研究を進めます。なお、その成果は「協議会提言」をはじめとする10周年記念事業や啓発・普及事業のセミナー等の内容に反映させます。

〔研究部会メンバー〕

加藤種男氏（アサヒビール）※部会長
池野谷真知子氏（日立製作所） 尾崎宣之氏（ワコール）
島田京子氏（日産自動車） 福田信義氏（ソニー）
森 光平氏（資生堂） 横尾浩輝氏（安田火災）

4. 顕彰事業（17,090千円）

新メンバーによる大賞部会および審査委員会の協力を得て、「メセナ大賞2000」を実施します。

なお、本年度から賞の数を合計8賞（99年度は7賞）に増やして応募意欲を高めるとともに、大賞以外の部門賞はその活動内容に応じて適宜名称を設けることに改変し、規定の枠にとらわれず柔軟に審査が行えるようにします。

また、協議会ホームページで募集案内を行うほか、本年度より電子メールまたはFAXによる応募方式を採り入れます。

- 応募締め切り 5月31日（水）
- 審査委員会 9月下旬
- 贈呈式 12月8日（金）会場：スパイラルホール

〔審査委員〕

池田逸子氏（音楽評論家）
岩城宏之氏（指揮者）
河合隼雄氏（国際日本文化研究センター所長）
中沢けい氏（作家）
ピーター・バラカン氏（ブロード・キャスター）
平田オリザ氏（劇作家・演出家）
福田美蘭氏（画家）
本江邦夫氏（多摩美術大学教授）
福原義春理事長

〔大賞部会メンバー〕

大森一正氏（日本生命） 加藤恒夫氏（大日本印刷）
西野正浩氏（資生堂） 西田克彦氏（NEC）
横尾 優氏（鹿島建設）

5. 国際交流事業 (2,370 千円)

各国のメセナ組織と日常の情報交流を継続するほか、次の行事への参加を検討します。

(1) CEREC国際会議

開催日程 2000年10月11日(水)～13日(金)
開催場所 アイルランド・ダブリン市
主 催 CEREC (欧州芸術文化と企業委員会)

(2) 国際芸術文化会議

開催日程 2000年10月30日(月)～11月3日(金)
開催場所 台湾・台北市
主 催 財団法人 國家文化藝術基金會

6. 助成事業 (8,350 千円)

長引く不況の中、最近では協議会の助成制度の存在がアーティストに広く知られるようになり、このところ助成認定の申請件数が急増し、選考委員会の進行や事務局の対応に影響が出始めています。

また、認定されても思うように企業から資金が集められないというアーティストの不満も多く聞かれることから、今後の事業展開について検討し、可能なかぎりの改善策を講じていきます。

□申請・認定件数推移

	1994	1995	1996	1997	1998	1999※
申請件数	103	92	125	121	121	(130)
認定件数	83	80	109	115	111	(117)

※1999年度は11ヵ月間の実績

なお、1999年度に当制度を活用して、企業や個人から芸術活動に寄付された金額は2月末日現在(11ヵ月間)で4億7,619万円になっており、すでに1998年度の年間実績を上回っています。

□ 助成寄付件数・金額推移

年 度	1994	1995	1996	1997	1998	1999※
寄付件数(件)	159	430	661	769	697	(687)
寄付金額(万円)	19,705	31,102	55,590	86,555	44,281	(47,619)
1件当り(万円)	123	72	84	113	64	(69)

※1999年度は11カ月間の実績

7. 10周年記念事業(15,000千円)

協議会設立10周年を迎えた本年度は、あらためて企業メセナの意義を社会に訴える好機であることから、会員の協賛を得て記念事業を実施します。ただし、今回の記念事業は最近の厳しい経済状況を考慮し、小規模予算のもとで、地味ながらも有意義な企画に絞り込み、実施することとします。

7.1 協議会「提言」

- (1) 過去10年間の協議会活動を総括しつつ、わが国の芸術文化振興に求められる政策・施策、企業や市民の支援活動などについて、協議会からの「提言」にまとめて発表します。
- (2) 発表時期は、2000年9月とし、行政、マスコミ、文化団体などに向けてアピールしていきます。

7.2 記念出版物の刊行

次代を担う若い企業人や学生層を主な対象に、企業メセナの意義やその必要性、重要性についてわかりやすく解説した書籍を刊行します。なお、本書を契機に、今後2~3年に1冊、メセナ関連書籍を刊行していくこととします。

- (1) 書名 「ニューミレニアム叢書 やさしいメセナ入門」(仮)
- (2) 発行時期 2000年10月

7.3 記念シンポジウム

上記の「提言」や出版物の内容に連動させ、次の記念シンポジウムを東京都内で10月に開催します。

(1) テーマ

「明日の社会と芸術文化」(仮)

21世紀における芸術と社会生活の関係、企業や市民による芸術支援の意義などをテーマにとりあげます。

(2) 構成

海外の文化研究者による基調講演と、国内の企業人、芸術家、文化人等によるパネルディスカッションで構成します。

7.4 その他

(1) 会員によるPR

会員企業や団体が実施するメセナ関連イベントの案内パンフレット、ポスターなどに協議会設立10周年を表すロゴマークを表示して、積極的にPRしていただきます。

(2) 通常事業への組み入れ

本年度の「メセナ白書2000」、「メセナ大賞2000」、ニュースレター「メセナnote」などにおいて10周年関連企画を実施します。